

令和7年度 加古川市立陵南中学校

『全国学力・学習状況調査』結果分析と今後の取り組み

4月14日、17日、全国の中学3年生を対象に、国語、数学、理科、生徒質問紙の内容で調査が実施されました。以下に、本校3年生の調査結果を分析したものと今後の取り組みについて報告します。

1. 国語科

(1) 調査結果

- ・陵南中学校の3年生の結果は、兵庫県や全国の結果とほぼ同じである。
- ・書くことについては苦手意識がある生徒の割合がやや高いことが読み取れる。
- ・読み取る力や漢字の読み書きに関しては、成果が見られる。
- ・全国的な傾向と同様、物事について自分の考えをもち、それが伝わる文章になるように工夫して表現することがやや苦手である。
- ・全体的に無解答率が低く、粘り強く問題に取り組む姿勢が見受けられる。

(2) 結果分析

- ・文脈に即して正しく漢字を書くことができる。
- ・目的や意図に応じて資料を整理し、伝えたいことを明確にできる。
- ・文章中の情報と情報を関連付けたり、段落の役割や関係を理解し、内容を捉えたりすることができる。
- ・他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることがやや苦手である。
- ・目的に応じて、文章から必要な情報を読み取ることはできるが、要約することがやや苦手である。
- ・表現の効果を工夫し、自分の考えが伝わる文章にすることがやや苦手である。

(3) 今後の取り組み

- ・物語文や説明文だけでなく、資料から必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする機会を設ける。
- ・人の意見を聞いたり文章を読んだりすることを通して、自分の考えを持つ機会を増やしていく。
- ・自分の考えを持ち、それを相手にわかりやすく伝える練習を行う。
- ・文章を書く機会をさらに増やし、自分の考えが伝わる文章を書く力を伸ばす。

以上の取り組みを、国語の授業で行っていく。また、総合的な学習の時間や学活などでも身につける機会を設けていきたい。

2. 数学科

(1) 調査結果

- ・ 陵南中学校の3年生の平均正答率は、兵庫県や全国の結果と同程度～やや高いであった。
- ・ 「データの活用」の領域の平均正答率は兵庫県や全国の調査結果よりやや下回っているが、「図形」の領域の平均正答率は兵庫県や全国の結果と比べてやや上回っている。
- ・ 数学的な知識・技能が問われる問題においての結果は良好であるが、思考力・判断力・表現力を問われる問題の正答率は、兵庫県や全国の調査結果よりやや低い傾向にある。
- ・ 記述式の問題形式での正答率は兵庫県や全国の調査結果よりやや低い。
- ・ 一部を除き、兵庫県や全国の結果と比べて無回答は少ない。

(2) 結果分析

- ・ 数学的な知識・技能においては、日々の授業において繰り返し復習に取り組んだことが、基本的な技能の定着につながったものと考えられる。
- ・ 昨年度と同様、確率の問題での正答率が低いことから、問題文を正確に把握したり樹形図や表を使って正確に書き出したりすることが苦手な生徒が多いと推察できる。
- ・ 「説明する」「証明する」といった記述式の問題での正答率は振るわなかったが、無解答率は低いことから、日々の授業における既知の知識や技能を関連付けて、その思考の過程を表現する取り組みの成果が見られたと考えられる。

(3) 今後の取り組み

- ・ 引き続き定期的に復習を行い、基礎・基本の定着を図る。
- ・ 文章を正しく読み取り、論理的に考察し表現する機会を増やし、説明する力や表現する力の向上を図る。
- ・ 本校の過去5年間の生徒質問紙調査の調査結果と比較しても、家庭での学習時間が少ない傾向が見られるため、授業で学習した内容を家庭学習で適切に復習できるような取り組みを行う。

以上の取り組みを、数学の授業で行い、総合的な学習の時間や学活などでも身につける機会を設けていきたい。

3. 理科

(1) 調査結果

- ・ 陵南中学校の3年生の平均正答率は、兵庫県や全国の調査結果とおおむね同程度であった。
- ・ IRT バンド分布グラフより、兵庫県や全国より平均的な学力の生徒が比較的多い。
- ・ 無回答率は低い。

(2) 結果分析

- ・ 化学・物理・地学・生物各分野で、全国正答率と陵南中生徒の正答率で大きな違いは見られなかった。中でもエネルギー分野の情報の取扱いに関する問題や電熱線を利用した電気回路の問題などは比較的正答率が高かったが、物質分野・エネルギー分野等における疑問解決や考察の質を向上させるための課題発見能力がやや低かった。
- ・ 提示された情報からの考察を必要とする問題は分野全体を通して課題が見られた。一方で知識や計算を必要とする問題には全国正答率を上回る思考力が見られた。

(3) 今後の取り組み

- ・ 科学的な思考力を伸ばす実験や観察を行い、考察する力を伸ばしたい。
- ・ I C T機器を使用したり、協同的探究学習を行うなかで、問題解決の能力の向上を図る。

4. 生活

(1) 調査結果

- ・ 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して肯定的回答の割合が約8割で、兵庫県や全国と比べ、上回っている。
- ・ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して「当てはまる」と回答した割合は、兵庫県や全国の平均を上回っている。
- ・ 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して肯定的回答の割合が昨年度から向上し、兵庫県や全国の平均を大きく上回っている。
- ・ 「友達関係に満足しているか」の質問に対して肯定的回答の割合は96.7%と兵庫県や全国の平均を上回っている。
- ・ 「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して肯定的回答の割合が全国平均をやや下回っている。

(2) 結果分析

- ・ 生徒の規範意識は高く、地域や社会に目を向ける意識も上昇している。

- ・友人関係に満足している生徒が年々増加している。コミュニケーショントレーニングやソーシャルスキルトレーニング（SST）に取り組んだことも、自分と異なる意見に対して受容する意識の向上に役立ってきたのではないかと考えられる。
- ・学校に行くことや友人関係、教師との関わりなど、前向きな意見が多い。
- ・自分で学び方を考え、工夫しようとしていると答える割合がやや下まわっており、自ら課題を考え克服する力をつける必要がある。
- ・インターネットや情報機器に関係する項目が兵庫県や全国平均よりも低い傾向にある。

（３）今後の取り組み

- ・基本的生活習慣を整えるための具体的な方法の啓発を行い、学習や運動活動の質向上につなげる。
- ・自分の意見を適切に伝える力や他人の意見を聞く力を向上させるために、引き続きコミュニケーショントレーニングや SST を行い、自分自身を見つめ進路実現につなげていく。
- ・ICT 機器を適切に活用する学習を行うための時間の確保や適切な課題を改訂し、自ら楽しみながら、友達と協力しながら学習を進めることができる教材開発を進める。
- ・自身のキャリア実現や将来の夢を見つけるために、進路学習やキャリア教育を重点的に行う。